

今日は2月1日ですので明後日は2月3日。節分。今日本中で問題にもなっている事の1つに、恵方巻を食べるといのがありますね。恵方巻はちょうど30年前に、広島の子七イレブンの店長が始めました。「大阪では、節分で恵方に向けて太巻寿司を食べている。この伝統を日本中に広めたらうけるぞ。」先駆者として子七イレブンがやったら当たるんじゃないかという事で、「これは日本の伝統だ!」と広島で売り出したら、爆発的に売れて売り切れ。それで、広島を中心に徐々に広まり、21世紀に入ってから全国的に広まっていきました。

その最大の理由は、日本の伝統だという事で売り出したから。恵方というのは「恵みの方角」と書いて恵方で、縁起のいい方角というのは毎年変わる。それで、その年の恵方に向けて、太巻きのお寿司を黙って食べます。大阪の人は分かってますよね。喋ったらアカン。太巻寿司を黙々と、かぶりついて食べる。小さな子供だったら、顎外れるんちゃうかみたいな。

日本中に広まってまだ20年くらいですが、元々大阪に伝わっている古い伝統に由来するもの・ご先祖がした事に繋がっていくものという事で、日本人は伝統に弱い。大阪で恵方巻が始まったのはいつ? 奈良時代? 違う。平安時代? 違う。江戸時代? 違う。昭和7年。裁判記録が残っているんですよ。節分の寒い時期には寿司が売れない。で、ある寿司屋のオヤジが「この寒い時期に、寿司が飛ぶように売れるにはどうしたらいいか? そうだ! 恵方に向けて太巻寿司食ったら幸せになる。これで行こう!」

これが方々に広がって、恵方巻という名前・ブランドを巡って「俺が先に言うた。」「いや、俺の店の方が先やった。」「いや、俺の方が先に言うたんや」という事で裁判になった。裁判官が、どれが正しいのかと資料を方々から提出させて分かったのは、昭和7年頃に誰かがやったという事。それは、はっきりした。それ以前ではない。平安時代じゃない。昭和! ここにいらっしゃる方は、全員昭和じゃない? まさか平成はおらんでしょう。たまに大正の方いらっしゃるかもしれませんが、殆ど昭和だと思います。伝統って聞いたら屈服してしまう。だけど、寿司が売れない時期に売ろうとした商売戦略に人が乗っかってるだけ。

こういう事はたくさんあります。この集会主催で、2か月に1回、「国際情勢と聖書の預言」について、天満橋倶楽部をやっているのですが、主にビジネスマンの方が来られます。

昨年、あるビジネスマンが、「最近、イスラエルから来日する観光客が多いんや。ユダヤ人に『これが日本だ!』というのを見せようと大阪見ても、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンで、アメリカから来たやん。大阪にあるけど、ユニバーサル・スタジオやん。吉本言うても、ユダヤ人に分からへんやろ? ポケモツッコミも分からへん。外国から来たお客さんに『これが日本だ』と紹介できる名所を抱えているのは、やっぱり京都や。」同感! 逆らいません。「どこに連れて行ったんですか?」「平安神宮や。」

私も何回か取材で行きましたが、「平安神宮、ユダヤ人にどう説明するんですか? 分かりますかね?」平安時代1200年前。「『1200年前の神社が、戦乱をくぐり抜けて、そのまま今でもあるって、すごいと思わない?!』って言うた。」

気持ち良くお話されているのに、水を差すのもちょっとナンだったんですけど、それ、真っ赤な嘘です。平安神宮が造られたのは明治に入ってから。平安遷都1100周年を記念して明治政府が建てました。平安神宮と書いてあったら、平安時代からあると思ってるでしょ。違う。そういう話が京都の神社仏閣にゴロゴロある。それを一々言うてたら嫌われますよね。「折角盛り上がってるのに水差すなよ!」って感じ。

「これが伝統なんだ!」と言うと、「ご先祖様に繋がっていく事だからありがたい」と思い易いのですが、古くから伝わっていると思われる事の中には、良き伝統と根拠のない因習の2つがあります。良き伝統は守っていくべきだと思います。しかし、悪しき因習は捨てていかなければ、次の時代に適応していく事はできません。

日本には守るべき良き伝統があります。例えば敬語。今の日本人で、最も美しい日本語を話されるのは美智子皇后ではないかと思っているのですが、案外、外国の方から、本当に丁寧な日本語を聞く事がありますね。ドナルド・キーン(1922-2019)、ご存知ですか? アメリカを代表する日本文学・日本文化の第一人者。今は日本人になりましたけど、この方の講演を聞いていたら「こんな日本語、話したいなあ。無理やろなっ!」語彙の豊かさ! 源氏物語を古語の原文で読めるんだから。そういう良きものがある。

日本には日本の神々がある。日本の神社仏閣がある。日本の信仰がある。でも、日本人だって人類の一員じゃないですか。ずっと日本人の先祖を辿っていったら、最初の間人アダムとエバまでいくんです。アダムとエバをお造りになった神は日本人の神です。聖書の神は外国の神じゃない。日本人のご先祖を始めた神。聖書は外から来たように思えますが、そこに書かれている記述は、私たちのルーツそのものであるという事が分かるんですね。

創造主。人が作った神じゃない。人の最初をお造りになった方。私たちの魂の親である方。親は子供を愛するでしょ。中には、オヤオヤ…という人もいるかも知れないけど、基本的には、親は子供を愛する。私たちの魂の親であり、父に父性本能を与え、母に母性本能を植え付けた方は、愛そのものなる方です。私たちが愛して下さっている方が、私たちに不幸のプランを立てるはずがない。

祝福の基である方から離れている事こそが、人間の問題の根本的な原因だと聖書は語ります。創造主から離れて、神ではない偶像を拝んだり、占いをやったり、自分自身を神のように拝む自己中心になったり、これ全部偶像礼拝。真(まこと)の神様から離れて生きる事を、聖書は罪と言うのです。

神が罪人(つみびと)である人間に対して語っておられるのは呪いではなくて祝福。この祝福のメッセージが福音(ふくいん)。祝福の音信。これを合体させて福音。福音は罪人に対して語られた祝福のメッセージ。今日は、キリストが私たちのためにして下さった3つの事を通して福音を考えたいと思います。

**ローマ書 8:34 だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなして下さるのです。**

キリストが私たちのためにして下さった1番目; **だれが、私たちが罪ありとするのですか。**

聖書は一貫して**罪あり**という事、「人間には罪がある」という事を生々しく語っていますが、**罪あり**の私を罪なしと認めるために、神はイエス・キリストを十字架につけて下さった、キリストが私のために死んで下さったという事を伝えているのです。

神は愛して、**罪あり**の者のために、キリストを送って下さいました。

私は2日前まで石垣島に行っていました。石垣島の小学校で、子供たちを相手に「生き方教室」というのをやって、今年でもう6年目。今回も初めての小学校に行って、1年生から6年生の全校生徒18人。最前列1年生3人。2列目2年生3人みたいな。小さな教室に全校生徒で18人だけど、6年生と1年生じゃ全然違いますやん。1年生なんて、椅子に座ってて、足が床に着いてへんねん。ぶらんぶらんさせて。そんな子と、6年生もうすぐ中学1年になる子とね、一緒に話しますんよ。どこに焦点を当てたらいいの?

すごくシャイな子が多くて、私がワーやってたら、皆段々恥ずかしそうに…。こっちが恥ずかしい…。  
「そんな、恥ずかしがらんといて。」でも、司会をして下さった先生の司会で、随分心が開きました。  
この近所に中野中学があって、ここにも先輩方が何人かいらっしやいますけど、私は中野中学出身です。

司会の先生が「皆さん、私は石垣島の先生をやっていますが、生まれたのは大阪市東住吉区です。」「えー！」  
「小学校は南百済（みなみくだら）小学校です。」「ええー！」「中学は中野中学です。」「えええー！」「今日の講師の高原先生も同じです。」「ええええー！」

私、思わず立って「私、湯里（ゆざと）1丁目だったんですけど。」「僕は2丁目です。」「一緒。握手！」みたいな。ひよんな事で繋がりがあって、シャイな子供たちも段々元気になって行って良かった。

ところで、私は中学の時の事を鮮明に覚えています。中学3年の時、同じ学年にすごく可愛い女の子がいました。何回か芸能プロダクションにスカウトされたけど「勉強しますからいいです！」毅然とした感じで。私、その子に憧れてて。見るとポ〜！いつもは軽やかに、その他大勢にはなんぼでも話せるのに、その子には緊張して。美しすぎる人の前に出ると緊張するというか。

今日、すごくリラックスしてる。いや、そんな事ない！ほど良く緊張してます。

それで、話せない。彼女は「面白い人や」という事で話して来るんですけど「はい。はい。かしこまりました」という感じ。話せないから、どんな人かよう分からへんねん。よう分からへんから理想化してしまうんですね。「もしかしたら…、天使ちゃうか…。」もう究極の理想の人みたいに思っていました。

高校を受験して、彼女は制服のある進学校に行くんですが、そこは普通科のコースと、ある実技のコースも併設している学校です。その実技コースに、私のすぐ近所の女の子が進学する事になったけど、殆ど勉強しなくても通るコースでした。

彼女は本当に貧しくて、ご両親は油まみれになって一生懸命働いていたけど貧しい。それで、制服が買えない。お母さんが、その制服そっくりハンドメイドで作りました。ですが、そっくりと言っても、やっぱり生地も違うし色もちょっと違う。似てるけど、一目瞭然「これ、違う！」

高校生になってしばらくした時、憧れの天使とバッタリ会いました。その時、その天使が「〇〇さん、知ってる?」「知ってるよ。ウチの近所やもん。」「私、一緒の高校行ってんねんけど、あの制服、ダサいわ」みたいな事を言い、そして貧しい事を軽蔑するような事を口にした。貧しさは、その子のせいではないじゃないですか。だけど「あんなの、〇〇だから」って。

それ聞いた時、もう100年の恋も冷めますわ。「えっ、こんな事言う人やったん？ そんなん思うてるん？ アンタ！ お前！ 貴様！」みたいな。あんなにキラキラ輝いて見えたのに「この人の人柄ってそうなのか…。」自分が知らなかったそんな嫌な面を見た時、突然「話もしたくない」という気持ちになった事をよく覚えています。

でも、私たちにもそういう面がないですか？ 私はそう言いながら、絶対に自分の事を棚に上げています。自分だって「そんな事、考えてたん?」「そんな感性だったの?」「そういう卑しい思いがあったの?」見えないから、こうやって堂々と立っているけど、もし私の中のイヤな面を見たら、私との関係の持ち方を変える方が続出するんじゃないかと思えますよ。

だけど聖書を見ると、神様は罪ある人間の嫌な面、本人すらも気づいていないような、人間の腹の底の底

にある最も醜いものをご覧になっても、愛するのをやめないで「身代わりになって死んでやろう」と決意して実行した方。それが神。

いい面だけ見せてチヤホヤされるというんじゃない。どんなに醜い面・どんなに汚い面を全部見せても、神様は少しもたじろぐ事なく「あなたが罪人なので、わたしはあなたを愛します。」

私たちは“I love you. Because you are great”「愛します。あなたが素晴らしいから。」

でも神様は“I love you. Because God is love”「わたしはあなたを愛する。なぜ? わたしは愛だから」。神様は、私たちの人生の出来栄えに基づいて愛したり愛さなかったりするのではなく、ご自分の性質に基づいて愛されるのです。神様は愛の方なので愛が出て来る。私の出方とか、罪深さによって影響されないうで私を愛して下さる方。

「だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方」

「死んで下さった方がいるんですよ。イエス・キリストが私の罪を償うために、十字架の上で死んで下さいました。私の罪の刑罰を全部、身代わりに受けて下さったんですよ。」

石垣島で、3つか4つの小学校を回ってお話しするんですが、少ない人数の方がちょっとつかみ易い。全校生徒18人の学校もあれば、1学年100人という学校もあります。ある学校で、5年生と6年生二百数十人の前でお話しました。私、18人でも200人でも2万人でも、多分一緒やと思います。緊張しますねん。実はね、今も緊張してるの。

それで、難しい話をしても子供たちにはダメなんです。子供たちがみんな知っている話、何かなあって。私の子供時代の漫画と、今の子供が読んでいるのは違います。『明日のジョー』言うても誰も分からへん。「『巨人の星』? 知らん!」

でもね、『ドラえもん』はいけます。『ドラえもん』の連載が始まったのはちょうど50年前。50年続いてるって、すごいじゃない! 『ドラえもん』は大人と子供を結ぶ架け橋です。全部調べました。

『ドラえもん』を描いたのは藤子・F・不二雄という人で、本名は藤本弘(ふじもと ひろし/1933-1996)さん。

そのお話が終わった後、1年生が来て「先生、どうしても言いたい事があるんです。」もうキンコンカンコン、次の授業が始まる。「でもボク、どうしても、これ、お話ししたい。」「なに?」「ボクのおじいちゃん、ひろしです。」それ言うために、授業始まってんのに帰れへんねん。で、「言うたー!」って。そしたら、もう一人の女の子がリターンして帰って来て、「先生、ワタシのおじいちゃんも、ひろし。」「もう、ひろし、ええから」言うてね。子供って面白いわ。ホンマに。

その藤本弘君は小学1年の時から眼鏡かけてました。痩せてて・運動ダメで・勉強嫌いで・泣き虫で・いじめられっ子で…。誰かに似てますよね。のび太ですよ。のび太は作者がモデルなんです。

声でかくて・体でかくて・態度でかくて・すぐ暴力振るって・短気で・ガキ大将で・藤本君を狙い撃ちにしていじめてる奴がおった…。誰かに似てますよね。ジャイアンですよ。ジャイアンは実在の人物だそうです。ジャイアンの本名は剛田武(ごうだ たけし)。

ジャイアンには妹がいてジャイ子。ジャイ子の本名は『ドラえもん』の中に出て来ない。ジャイ子の名前が例えばメイだとすると、日本中の小学校のメイちゃんという女の子が、「お前、ジャイ子と同じ名前だ!」といじめられるかもしれないから。

いじめを受けて「もう、いじめられたくない!」という気持ちが強い作者は、そんな事まで配慮して伏せている。そういう話をしたもんだから、「えーっ! 今日帰ったら、絶対『ドラえもん』読む!」。もうドラえもんフィーバー! 楽しい授業だったと思います。誰も寝ないもん。ほんま。

ところが、ある小学校に行った時、ものすごくやりにくかった。5年・6年合同でやったんですが、真ん中よりちょっと後ろに座っている5年生の女の子。床に座っているのですが、話している最中に、足を餅つきみたいにバタバタ・ペッタンペッタン。それがシーンと静まり返っている教室にパッタンパッタン…。もう、それが気になる。やめて欲しい!

やんだかと思ったら、今度は両手を後ろに着いて、両足を私に見せるように。これ(V字形)、腹筋いるで。そしたら、その足を交互に字を書くように回して。これ、目回るで。やりにくいなあ、この子。しかも、周りは誰も止めない。

発達障害でも色々難しい問題があって、制止すると爆発するというか、收拾つかなくなる。力づくで抑え込むとバーン!となって、授業どころじゃない。そっと見守るのが1番穏やかになる。子供たちは皆それを知っていて、先生も知っているのだから、そばには近寄って下さるけど何にもしないまま。

足を動かしたかと思うと、今度は靴下脱いで、それを両手に持って、頭の上で振り回す。そんなんされたら気になるよ。見ないように見ないようにするけど、ふっと見てしまう。「やりにくいなあ!」

とにかく終わって、保健室の養護教諭の先生が走って来られて、「高原先生、お話し、やりづらかったでしょう。」それ、分かってんのやったら、何とかしてって。「ちょっと、やり易いとは言えせんわね。」「すみません。でもね、あの子の靴下、どんな柄だったか分かります?」「分かる訳ないじゃないですか、そんなの。」「ドラえもんだったんです。あの子はドラえもんが大好きなんです。」

彼女の中では、「私がドラえもん好きだから、大阪のおっちゃんがその話してくれたんや。私が履いている靴下はドラえもんなんだよ」というのを見せるために足をバーっと上げて。

それでも反応してくれないから、とうとう靴下脱いで「ドラえもんや!」って見せてくれた。

「あの子なりに応援してたんです。すみませんでした。」私、めちゃくちゃ感動した。今まで「チッ! 邪魔やなあ。鬱陶しいなあ。止めてくれや」と思っていたのですが、それは、私に対する悪意ではなくて好意でした。応援してくれてたんです。エールを送ってくれてた。

2000年前、キリストが十字架の上で死刑にされている時、誰も「これが神の愛なんだ」とは思いませんでした。だって汚いから。醜くて、汚くて、血が流れて。人ひとりが殺される。いや、その両側には、罵り言葉で叫び倒している犯罪人が2人いました。

人間の心の中にある醜いものが一番炸裂しているような現場に於いて、この上もない神様の愛が現わされているとは誰も思いませんでした。でも、この醜い・痛ましい・恐ろしい十字架処刑こそは、神様の愛・罪人へのエールだったのです。

あなたの罪は、イエス・キリストの十字架によって、キリストの身に於いて、完全に処分されました。あなたの罪は永遠の彼方に行ってしまった! ここに神様の愛があります。私たちが罪ありとするのは誰か? 私のために代わりに死んで下さった方、イエス・キリストがおられるのです。

キリストが私たちのためにして下さった2番目；いや、よみがえられた方であるキリスト・イエス  
イエス様は十字架にかかって死んで下さっただけでなく、死後墓に葬られ、3日目によみがえった方。  
よみがえられた方という事は、死を突き破った・死を滅ぼした方という事。  
私はイエス・キリストの復活を信じています。でも、その復活をこの目で見た事は1回もありません。  
見た事ないのに、なぜ信じているのかというと、見た弟子たちの証言を信じているのです。

キリストの弟子たちは、よみがえったキリストと出会い・語り・共に食事をし・歩き・タッチして、キリストが紛れもなく死を克服してよみがえられた事を確認した人たち。40日間にわたって、断続的によみがえったキリストと出会いました。「もう、疑いようがない」という根拠を得て、キリストの復活を宣べ伝えるようになったのです。彼らは、そのために人生を棒に振りました。

当時はローマ帝国時代。1番偉い人は皇帝カエサルで、皇帝はキュリウス（主）/神と呼ばれていました。でも、ローマ皇帝という神も、寿命が来たらいつか死にますね。「ナザレのイエスは十字架にかかって死んで、3日目によみがえった」となると、ローマ皇帝よりも上になる。そんなキリストがおられるという事がローマ帝国中に広がっていったら、皇帝の権威が地に落ちます。「黙れ！」

その前に弟子たちは、まずユダヤ人たちから大迫害を受けるのですが、とにかく、復活を宣べ伝える事によって、この世的には不幸になっていきました。捕まえられ・拷問され・死刑にされる。もし損得勘定が人間を動かす原理であるならば、絶対にしない事です。

しかし弟子たちは、「それは、殉教を意味する」と分かっているにもかかわらず、復活を伝えて行きました。損得勘定を超えた強力な感動を持っていたからです。「死んだ方がよみがえった！死はもう恐れるに足りない！」キリストのよみがえりは、「やがて、私たちもそのようによみがえる時が来る。その時にはこうなる」という、キリストを信じる者たちの予告編です。その希望が、キリスト自ら復活の体を見せる事によって授けられたのです。

山口彊（やまぐち つとむ/1916-2010）さんという方をご存知ですか？昭和20年8月、長崎から広島三菱重工業広島造船所に出張し、8月6日、職場に入る前に原爆を受けて被爆。左半身大やけど・左鼓膜破裂。すぐに治療を受けますが、非常に責任感が強い人で、「工場が壊滅したという事を、何とかして長崎の上司に言わなければならない。」8月7日にグタクタの状態でも広島を出て、8日に長崎に着きました。そして、翌日の8月9日に長崎で2発目の原爆を受けたのです。1人で広島と長崎の原爆両方を受けた。

この方の事は映画になりました。タイトルは『二重被爆』。広島原爆だけでなく長崎も受けて、大量の放射能を浴びてしまった。

彼は最終的には胃癌で亡くなりました。恐ろしいですね。ところで、彼が癌で亡くなったのは2010年/93歳の時です。原爆を1回も受けた事がない人でも、男性で93歳まで生きられるって…。ものすごい長寿で、最後までかくしゃくとされていて。

彼は90歳になるまで、二重被爆の事を誰にも言っていないでました。90歳になってから、被爆の語り部として「私は地上で地獄を見た！原爆はどれだけ非人道的兵器か！」と伝えるために活動なさったのです。なぜ90歳まで黙っていたのか？言わなかったのか？2回も被爆した事を知られてしまうと、被爆者の子孫という事で、子供や孫や曾孫が何か差別を受けるのではないかとこの事を心配したから。でも93歳まで生きられました。この方の事は色んな研究機関で研究されています。

2010年に亡くなったという事は翌年2011年。東日本大震災。原発で事故が起こり、それを恐れて、福島から沖縄や石垣島に移住された方もたくさんおられます。テレビやインターネットで、放射能の事を根拠もなくフェイクニュースでメチャクチャ恐ろしい事みたいに言う人がいるから。それを真に受けてしまうと、怯えて、どうにもできなくなってしまうんですね。

2回原爆を受けても93歳まで長生きした山口さんは、その反証になりました。放射能によってDNAは破壊されますが、同時に生命というのは、破壊されたDNAを修復していくという力がある。これが、研究者によって明らかにされている事です。人間の中には、ものすごい復元力・回復力があるんですね。山口さんの事は、放射能の事で悩んでいる方々にとって生きた希望です。自分たちよりも、もっとひどいものを受けているけど、こんなに長寿で元気に活躍された方がおられるという事は希望なのです。論より証拠。

弟子たちは、復活したキリストを見た時、単に「あ、生き返って良かった」と喜んだわけではありません。そうではなく「死というものを完璧に滅ぼした。人間には死後の命があり、死後の世界があり、そこで生きる時の体はこのようなものである。」

1度死んでよみがえった方が「死は恐れるに足りない」という事を、ご自分で見せているので希望なんです。死んだ事のない人が「ああだ、こうだ」と言っているのではない。大きなダメージを受けながら、それをひっくり返して、永遠の命を確立している方の姿が希望なのです。

だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエス

この方はよみがえられた。復活なされた。もう死を前に怯える事はないのです。クリスチャンにとって死というのは、自分の魂の故郷である神様の元に帰る玄関口にしか過ぎません。あなたのために、死の問題の完全解決を成し遂げて下さった方、そして、復活によってそれを立証している方がイエス・キリストです。

キリストが私たちのためにして下さった3番目；**神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなし**  
**ていてくださるのです。**

よみがえったキリストはどうなったか？ オリーブ山に上られて、そこから天に帰って行かれました。弟子たちは、それを肉眼で見たのです。

そしてキリストは「あなたがたが見たのと同じ様子で、また世の終わりに来ます。」これを「キリストの再臨」と言います。キリストは天からまた来られる。これが地上再臨。天から来るキリストが本物のキリストです。イエスの後に地上で生まれ、人間なのにキリストと名乗っているのは全部偽メシア。天から来てないから。

天からキリストが来る再臨までの間（今の事です）、キリストは何をなさっているのか？ 私たちのために執り成して下さっている。今この集会の最中にも、キリストは天で、このメッセージを聞いておられるあなたのために、父なる神/全能の神に祈って下さっています。「どうぞ、キリストを受け入れ、救いに与りますように。その勇気を与えてやって下さい。」

**ローマ 8:23** それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだが贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。

祈りだけではなく、キリストが神の右の座に着かれたその後で、「イエスを救い主として信じる全ての人々に、神様は聖霊という神の霊を与えて下さるのだ。クリスチャンは、既にそれを頂いているのだ。」御霊が聖霊。クリスチャンは聖霊を頂いている人たち。

「イエス・キリストを信じると聖霊を頂いて、その人の中に神の霊が宿ります」と言っているのです。

**ローマ 8:26** 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、言葉にならないうめきをもって、とりなしてくさるのです。

イエス・キリストを信じた人には、私たちがぬいぐるみの中に入るように、神様の霊/聖霊が私たちの中に宿って共に生きて下さる。全知全能の神様が私の心の中に住んで下さるのだと約束している。この方が私たちの内側から力を与えて下さるので、クリスチャン生活をする事ができるのですね。

私は今日ここに自転車で来ました。今日は寒かったですねえ。あんまり早くこぐと顔寒い。ゆっくり過ぎると中々着かない。ギリシャ神話みたいやなと思いながらこいでいました。途中でちょっとした、坂とは言えないほどの上り坂があって、寒いのを我慢して「行くぞ!」とガーッと。

そしたら後ろから、ものすごいスピードで追い抜いて行った自転車。3人乗りのお母さん。前にちっちゃい子、後ろにお姉ちゃん、真ん中自分でフード付き。フード付きという事は、空気抵抗上、非常にこぎにくいと思いますよ。にも拘らずシュワっ! ビュン! 3人乗り。

どんな脚力やと思って見たら電動自転車でした。電動自転車はスクーターじゃないです。すごく「霊的な乗り物」だと私は考えているのですが。バイクやスクーターはアクセル回すだけでビュンと前に行く。アクセル1つで前へ行く。電動自転車にはアクセルついてない。普通はただの自転車。

但し、自らの力で一歩こぎ出すと、モーターが連動して、力を貸してビュンと行く。こぐのを止めたら普通の自転車に戻る。自分がペダルを踏み込んだ時だけ、力を貸してくれる電動自転車。霊的です。

「神様、私に力を与えて下さい。行うつもりないけど…」これ、力は来ません。「怖いんだけど、一歩踏み込んでみよう。一歩前進してみよう。」「これをやったら、親戚付き合い、色々困るかも分かん。けど、一歩踏み込んでみよう。」そうして行くと、環境も動き出します。

何よりも、自分の中に神様に対する愛が湧いて来るんです。それは、神と私の間に挟まっていたものが取り除かれて、力がすーっと降りて来るから。そして、内におられる聖霊が喜んで、また元気! 聖霊による歩みとは電動自転車なのです。自ら踏み込む事によって、その時にのみ、神様が折にかなった力と助けを与えて下さるのですね。

いかかでしょうか。自分の力で歩む人生から、自分の一歩と神様の力が合わさった歩み、神と人との共同作品としての人生、いつも神の力が舞い降りて来るような人生って、素敵だと思いませんか?

どうか「罪には赦し、死には天国、歩みに於いては聖霊による力」を提供して下さるイエス・キリストを信じ受け入れて下さい。心からお勧めしたいと思います。

~~~~~

- \* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」ぜひ見て下さい。
- \* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(15分)も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。YouTube もあります。

動画筆記 : Rumi